

# Because 節内に現れる命令文の変遷

17 世紀から現代まで

富山 晴仁

## 1. はじめに

統語論の分野では約半世紀にわたり従属節内の主節現象が議論されてきた(Rutherford 1970, Hooper and Thompson 1973)。その中の 1 つに“I'm staying because consider which girl pinched me.”(Lakoff 1984: 476) のような because 節内に命令法の動詞が現れる現象がある。本発表の目的は、17 世紀から 19 世紀に至るまでの文献から because 節内に現れる命令法の使用例を示すことで、従属節内での主節現象の研究に通時的データを提供することと、それらの統語構造を現代英語における because 節内の命令法と比較、分析することである。

## 2. 収集方法

調査の対象とする命令法の動詞は *suppose* と *consider* とした。これは、because 節内に現れることが可能な命令法の動詞が認識動詞に限られているという Takahashi (2012: 183) の指摘に基づいて選択したものである。

17 世紀の文献は Early English Books Online を用いて、18 世紀と 19 世紀の文献は Google Books を用いて調査した。最終アクセス日はいずれも 2020 年 5 月 31 日である。

## 3. Suppose

*Suppose* を用いたものは 17 世紀で 11 例、18 世紀で 3 例、19 世紀で 14 例の計 28 例を確認することができた。この中で最も古い 1639 年からの(1)と、最も新しい 1895 年からの(2)を下に示す。

(1) They make little for Bellarmine. First, because suppose Ruffinus his speech to be true, yet this will never follow:...

William Laud, *A Relation of the Conference between William Lavvd, ...,*

Richard Badger, 1639, p.14

(<https://search.proquest.com/eebo/docview/2240857241/Sec0001/3B070618EB6A40FDPQ/1?accountid=141791>)

(2)...because, suppose, for instance, that the Duke of Athole thought fit to institute himself an action of declarator for the purpose of having it declared that the public had no right to use this road: He might do so:...

James Paterson, *Reports of Scotch Appeals in the House of Lords A. D. 1851 to 1873,*

W. Green & Sons, 1895, p.101

(<https://books.google.co.jp/books?id=5WE2AAAAIAAJ&printsec=frontcover&hl=ja#v=onepage&q&f=false>)

(1)の because 節内の命令節は叙述節を伴って現れている。命令節は条件節として、叙述節は帰結節として機能し、全体として条件文のように振る舞っているものと考えられる。叙述節とのペアが確認できたものは、28 例中 26 例であった。この中で(1)のように命令節と叙述節がコンマで隔てられて because 節内に現れている例が 22 例、句読点が無い例が 1 例、セミコロンで隔てられている例が 2 例、コロンの区切られているのが(2)の 1 例であった。(2)に関しては、叙述節が大文字で書き始められている点が特徴的である。

## 4. Consider

*Consider* を用いたものは 3 例しか確認することができなかった。その中の最も古い 1656 年の(3)と最も新しい 1888 年の(4)を下に示す。

(3) ...because, consider the King materially as a mortall man, he must be inferior to the whole Church,...

Samuel Rutherford, *A Treatise of Civil Policy:...,* Simon Miller, 1656, p.143

(<https://search.proquest.com/eebo/docview/2240919862/99866930/DEDC92D3D56D45FFPQ/1?accountid=141791>)

(4) ...because consider what a frightful responsibility it was for the board, to have conducted you through years of litigation, and then have it turn out wrong!

*Railway Times*, vol 54, Exeter-Street, Strand, 1888, p.133

(<https://books.google.co.jp/books?id=aRVCAQAIAAJ&printsec=frontcover&hl=ja#v=onepage&q&f=false>)

(3)の consider も、多くの suppose の例と同じように叙述節を伴っている。得られた 3 例のうち別の 1 例も叙述節を伴っていた。残りの 1 つが(4)で、冒頭で見た Lakoff(1984)の例と同様に consider の補部の名詞節が wh-句を前置したものになっていた。この構造は、命令法の動詞が主要部となっている節とは異なる別の節が because 節内に導入されているという点において、suppose の場合と同じ構造を持っていると言える。

## 5. 現代英語との比較

これまで見てきたように、19 世紀までは命令法の suppose も命令法の consider も、because 節内に現れる場合は命令節とは別の節を伴っていることがほとんどであった。この構造は(5)のように表すことができる。

(5) [ because [ 命令節 ], [ 節 (理由) ] ] or [ because [ 命令節 [ 節 (理由) ] ] ]

別の節が because 節内に導入されている構造は Lakoff (1984)が正しく予測するものである。Lakoff(1984)によると、because 節内に命令法が生じても解釈可能なのは、命令法とともに理由を表す陳述部分が存在するからであるとされる。この節はたいていの場合叙述節であるが、Lakoff(1984)自身が取り上げた例などのように修辭疑問として解釈される疑問節の場合もある。

(5)の構造は現代英語にも見ることができる。ただし、現代英語では(5)のような構造に加えて、次の(6)(7)のように理由を表す節が because 節内に現れていない例も存在するのである。この構造は(5)に対して(8)のように表すことができる。

(6) Not necessarily, because suppose God's existence is contingent. This would mean that there are some moral truths that would obtain in worlds in which God does not.

*Good God: The Theistic Foundations of Morality* (Paperback Edition),  
David Baggett and Jerry L. Walls, New York, Oxford University Press, 2011, p.263

(7) Because, consider. If you were strong-willed enough to be able to resist the low opinions of others, when they thought you were a queer, or an embarrassment, or just a plain old bag of shit, then you had to be strong-willed enough to resist...

*The Stand* (Mass-Market Edition), Stephen King, New York, Anchor Books, 2011, p.992

(8) [ because [ 命令節 ] ]

(7)(8)の全体を見ると、because 節を含む文に後続する文が理由を表していることが分かる。本来は because 節内にあるはずの理由の節が、現代英語では because 節の外に出て、独立した文として理由を表現できるようになっているのである。この点に関して 1895 年の(2)は興味深い。(2) の理由を表す節は、ピリオドで隔てられていないものの大文字で書き始められており、(8)の構造に至るまでの過渡期的な表現だと見て取ることができる。

## 6. おわりに

17 世紀まで遡る期間においても、because 節内に命令法の suppose と consider が現れることを文献から確認することができた。17 世紀から 19 世紀までは、その命令節が because 節内に現れる場合、その節とは異なる別の節と共起していることを見た。これは Lakoff(1984)が予測する構造であるが、現代英語ではこの構造が必ずしも保持されなくてはならないものではなくなっている。今後はこの変化の過程と、理由を表す節が because 節の外側にある際の解釈の方法を解明していきたいと考えている。

## 引用文献

- Hooper, Joan, and Sandra Thompson (1973) "On the Applicability of Root Transformations," *Linguistic Inquiry* 4: 465-498
- Lakoff, George (1984) "Performative Subordinate Clauses," *Berkeley Linguistics Society* 10: 472-480.
- Rutherford, William (1970) "Some Observations Concerning Subordinate Clauses in English," *Language* 46: 97-115
- Takahashi, Hidemitsu (2012) *A Cognitive Linguistic Analysis of the English Imperative: With Special Reference to Japanese Imperatives*, Amsterdam/ Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.